

## 5年生

### 1. 主題名 立場の違う相手の気持ちを考えて【親切、思いやり】

### 2. 教材名 もう1まいのカード

平成21年第33回全日本少年サッカー大会の準決勝での実際の出来事。名古屋グランパスと川崎フロンターレの試合は決着がつかず、PK戦へと突入する。5人全員がシュートを決め、PK戦はさらに延長戦へと続くが、大きな緊張の中、後攻のフロンターレの選手がシュートを外してしまう。その瞬間グランパスの優勝が決定したが、歓喜に沸くグランパスの輪の中からそっと抜け、泣き崩れるフロンターレの選手に声を掛けるキャプテンの姿があった。それを見た審判はイエローカードでもレッドカードでもない、フェアプレーを称えるもう1枚のカード「グリーンカード」を出す。応援の人たちから拍手が沸き、会場は温かな雰囲気包まれる。

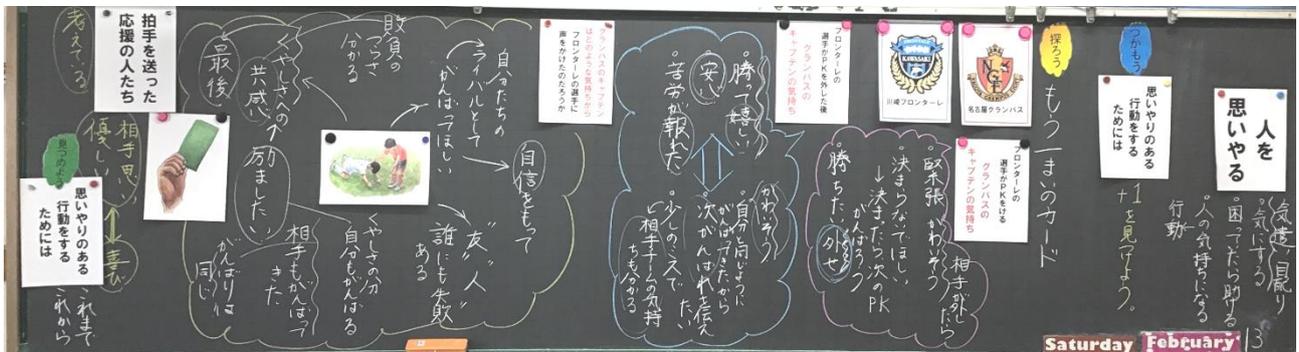
### 3. ねらい

勝利したチームのキャプテンが、敗北したチームに対してとった行動について考えることを通し、違う立場の相手の気持ちを考えて行動することの大切さについて気づき、思いやりの気持ちをもって行動しようとする心情を育てる。

### 4. 授業の様子

思いやりの大切さは分かるが、時にはそうできない時がある。それを乗り越えるための自分なりの答えを見つけることをめあてとし、グランパスの選手の気持ちを中心に話し合った。またグリーンカードを出した審判や、温かい拍手を送った観客の気持ちについても視点を広げて考えた。

「相手のこれまでのがんばりを認め、相手の気持ちを考える」「勝敗も大切だけど、人としての思いやりがもっと大切」「相手の気持ちに対して共感し、寄り添うことが思いやり」「うれしい気持ちの奥に思いやり」などと児童は自分なりの答えを見つけてまとめた。



### 5. 授業後の感想（児童のワークシートより抜粋）

- ・思いやりという概念が少し変わったと思った。今まではどうやって思いやればいいのか、相手はどういう気持ちかという答えばかり気にと取られてしまっていた。今はその答えにたどり着く過程が大切だと思った。
- ・相手が本当に苦しんでいるのを助けるために、その人の苦しさを自分に重ねて考えることができる人になりたいです。
- ・思いやりというのは相手にとってよかろうが悪かろうが、精いっぱい真剣に考えることが正解だと思った。自分が相手に対して最大限できることを考えて行動できるように努力したい。

### 6. 今後の思いやりについての指導

相手の立場に立ち、進んで助けたり励ましたりする姿が日頃より多くの場面で見られる。これまで、学習や帰りの会などの様々な場面で、見付けた良さを伝え合う活動を大切にしてきた。今後も日頃の些細な場面で、思いやりを大切にに関わり合おうとする子供たちの温かな姿勢を認め、豊かな思いやりの心を育てていきたい。